歯科衛生士概論

［講義］　第１学年　前期　必修　1単位

《担当者名》専任教員／○岡橋　智恵　／大山　静江　／ 千葉　利代　／ 秋元　奈美 ／ 山形　摩紗

【概　要】
我が国における歯科衛生士の教育は、昭和24年から開始されているが、この間、歯科保健に対する社会的ニーズは、その時代時代を反映して多くの変遷を経て今日に至っている。歯科医学・医療の発展は元より、国民の健康に対する概念も変化し、社会のニーズに合った歯科衛生士の育成が望まれている。歯科衛生士概論は入学した学生に対し、歯科衛生士が何故必要とされ、どのような社会的使命、歯科医学的役割を担っているのかを学ぶ。

【学修目標】
歯科衛生士になるために必要な歴史や現状を修得する。
●歯科衛生士の歴史を説明する。
●歯科衛生士の組織と活動の現状を理解する。
●海外における歯科衛生士教育を理解する。
●多職種における歯科衛生士の働きを説明する。
●歯科衛生士の法律的性格と業務内容の要点を理解できる。
●歯科衛生士の業務独占、名称独占について説明できる。
●安全管理の必要性を説明できる。
●歯科専門領域の基本的用語を理解できる。
●歯、口腔の健康と疾患、異常について理解できる。
●歯科医療の特異性について理解できる。
●医療職としての心構えについて理解できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	◎グループワーク 「歯科衛生士は何をする人か」 ◎歯科衛生の歴史 1)歯科衛生の誕生と経緯 2)歯科衛生の背景 3)歯科衛生業務の現状 4)歯科衛生士の役割と展望	●「歯科衛生士はなにをする人か」について考える。 ●日本の歯科衛生の誕生について概要を説明できる。 ●歯科衛生士の誕生について概要を説明できる。 ●Dental Hygienistの語源について説明できる。	岡橋　智恵
2	◎グループワーク 「歯科衛生士にできること」 ◎歯科衛生士の活動と組織 1)歯科衛生活動の現況 2)歯科衛生活動の場 3)歯科衛生士と組織	●「歯科衛生士にできること」について考える。 ●歯科衛生士の活動の領域と就業の推移を説明できる。 ●健康増進に関連する戦略の概要を説明できる。 ●医療保険制度の仕組みを概説できる。 ●介護保険制度の仕組みを概説できる。 ●歯科衛生活動の種類と業務の概略を説明できる。 ●歯科衛生士の社会組織活動の領域と組織活動を説明できる。	岡橋　智恵
3	◎グループワーク 「歯科衛生士に求められること」 ◎海外における歯科衛生士 1)海外の歯科衛生士のあゆみ 2)海外における歯科衛生士の現状 3)社会におけるニーズと今後	●「歯科衛生士に求められること」について考える。 ●海外における歯科衛生士教育内容を概説できる。 ●海外における歯科衛生業務内容を概説できる。	岡橋　智恵
4	◎グループワーク 「多職種連携を考える」 歯科衛生士の多職種連携	●多職種との連携をするために必要な事柄について理解する。 ●多職種の中で展開する歯科衛生士業務について理解する。 ●歯科衛生士の限界について理解する。	岡橋　智恵

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5	歯科用ユニットの取り扱い	○基礎実習帳 ●歯科診療時のユニット準備、片付けの方法と手順を理解する。 ●感染対策に配慮した歯科用ユニットの準備、片付けを実施できる。	千葉　利代
6	歯科衛生士法と歯科衛生業務 1)歯科衛生士と歯科衛生士法 2)歯科衛生士の役割 3)関連法規 4)安全管理	○「歯科衛生学総論」P42～54 ●歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務について概説できる。 ●歯科衛生士の業務独占、名称独占について説明できる。 ●歯科衛生士の専門性について概説できる。 ●歯科衛生業務に関連する法規を列挙できる。 ●安全管理の必要性と法的責任について説明できる。	大山　静江
7	歯科衛生士法と歯科衛生業務 リスクマネジメント 1)事故防止対策 2)事故発生時の対応	○「歯科衛生学総論」P55～65 ●ヒューマンエラーを分類できる。 ●本校のインシデント、アクシデントの傾向を説明できる。 ●針刺し事故が起きた際、対応できる。	大山　静江
8	歯科衛生活動のための理論 1．予防の概念 1）第一次予防 2）第二次予防 3）第三次予防 2．科学的思考 1）WHOによる健康の定義 2）ICF（国際生活機能分類） 3）EBM（Evidence-based medicine） 4）批判的思考（Critical thinking） 5）保健行動 6）ヒューマンニーズ理論	○「歯科衛生学総論」P20～31 ●予防の概念を理解できる。 ●ICF、EBM、批判的思考を説明できる。 ●保健行動の理論を説明できる。 ●ヒューマンニーズ理論を説明できる。	秋元　奈美
9 ～ 10	歯科衛生士と医療倫理 1．倫理の必要性 2．医の倫理と患者の権利 3．歯科衛生士と倫理 4．患者の自己決定権の尊重 5．インフォームド・コンセント 6．倫理の適用	○「歯科衛生学総論」P66～76 ●倫理の必要性について説明できる。 ●医の倫理について概説できる。 ●インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンについて説明できる。 ●歯科衛生士としての必要な倫理をグループワークより学ぶ	秋元　奈美

【授業実施形態】
面接授業
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】
◇定期試験 90%
◇授業態度 10%

以上を総合的に判断する。

【教科書】
歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」遠藤圭子ほか　　医歯薬出版

【学修の準備】
[授業時間外学習]
予習：30分…教科書や講義資料を読んでおくこと。
復習：30分…教科書の該当部分の授業内容と資料を読んでまとめる。

【実務経験】
岡橋　智恵（歯科衛生士）
大山　静江（歯科衛生士）
秋元　奈美（歯科衛生士）
千葉　利代（歯科衛生士）

【実務経験を活かした教育内容】
臨床の現場での実務経験を活かし歯科衛生士がなぜ必要とされ、どのような社会的使命、歯科医学的役割を担っているのかについて講義する。